

○殆どの身体的虐待は男性、特に父親からもたらされるとされてきたが、実際には、子どもに向かう暴力は母親からと近似値である。(サンプルの49%は母親、40%は父親)

② Lindsey氏の所見

Lindsey氏からの報告においても、以下の点が挙げられた。

○女の子は注意してみるが、男の子は見過ごされがちである。

サッカー等の集団の中で男の子が被害に遭うことも多く、そのため、ソーシャルワーカーや学校の教師は厳しくトレーニングされている。

○95%は男性が加害者。一番悪いのは、母親が見て見ぬふりをする事。

○知的障害は3~4倍のリスクがある。

○若い子同士は起こりえないと考えられていたが、12~3歳でも、それより下の年齢でもあることが判ってきた。

○加害者は、大人になってから突然加害行為を行なうのではなく、若いときからやっている。但し、これまでは、その人も性被害を受けていた、と考えられていたが、必ずしも性的虐待を受けていた訳でない。

親同士の暴力、身体的虐待、学校でのストレスなど ⇒ ストレスと攻撃性が結びつき、性的虐待へ 向かう。

統計的には、国の全国統計(2002年)で、全児童虐待相談件数 25700件のうち、性的虐待は2800件(11%) (ネグレクト39%、身体的虐待16%、心理的虐待18% 複合16%) となっている。この性的虐待の数は年々減っており(1996年 約17%)、特に、近年、相談・調査件数が劇的な減少を見せており、様々な関係機関がこの現象がどのようなことを意味するのか理解しようと努めているところ、とのことであった。

3) アセスメント

鵜飼氏によると、NSPCCとしては、「Parkside Clinic」のようなクリニックと共同でChildren's Social Careのための調査・アセスメントプロジェクトを実施している。

アセスメントは様々な観点から行われており、家族全体のアセスメント、子どものアセスメント、非加害親の子どもを守る能力についてのアセスメント等、それぞれにモデルがあるが、全体をカバーするモデルがあるわけではないとのことであった。

また、子どもや若者が加害者である場合にもアセスメントを行っており、この場合、リスクと治療的必要性に関するアセスメントとなり、NSPCCの中でもこの分野に特化したスペシャリストサービスがある。このような若者や被害児童に対する治療的関与も数多くなされているとのことであった。

「Parkside Clinic」とNSPCCのアセスメントプロジェクトでは、虐待ケースに対して、多職種の専門家(精神科医師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、心理療法士、家族療法士)がチームとして合計4~5回の面接を行い、合議のレポートを出す形でアセスメントを実施しているとのことであった。

アセスメントの際に留意しておくポイントとして、Lindsey氏から以下の点が挙げられた。

- ・子どもの発達が止まっているかどうか
- ・子どもはできるだけ家にいる方がいい
- ・家庭も何かサポートを得るべき
- ・裁判所に対して、どうして家から引き上げになったのか説明できないといけない

★このアセスメントの基本は家族を助けることであるため、保護の可否を判断するのに難かしさがある。

アセスメント後のリサーチとして次のようなことが把握されているため、その点もふまえてアセスメントを慎重に行っている。

- ・家から引き上げられた子は里親宅を転々とする。
- ・学校でも十分な教育ができない
- ・サポートしていくのに長い時間がかかる(2~3年)
- ・家族がドラッグの問題を持っていると身体的虐待かネグレクトかの区別も難しい
- ・いるいるな人が出入りしており、その人からの性的虐待があっても気づかず、見て見ぬふりをする

・暴力について肯定的な人もいる。

子どもの時は叩かれても何も言われなかったのに、何故言われえないといけないのか、と言う人もいる。 体罰文化を持ってきた移民

①子どものアセスメント

子どもの人権を尊重しながら、子どもが自分のペースで話せるようにする。

病院の医師と警察、ソーシャルワーカーでスペシャルチームを組み、調査を実施する。

○子どもに対し

- ・あなたは悪くないこと
- ・体は大丈夫である
- ・何が起こったか

をはっきりさせていくことが大切である。

○一番初めは、小児科でのInvestigation (調査)

性行為がどの位か、トレーニングを積んだ医師が対応する。

上記の観点をもち対応する医師の役割は重要だが、それをやりたい医師は少ない。

調査面接の際、いい問いかけをしないと、子どもも答えないため、はっきり質問していく。

これまでの調査の中で、子どもは大体の場合、嘘をつかないことが明らかになっている。(本当かどうかは見ていく必要はあるが)

②親(非加害親)のアセスメントと対応

親からの保護の要否は、非加害親がどれだけ子どもを守ることができるかにかかっており、非加害親の力を見て判断する。

- ・非加害親が何を知っているか、探り出す。
- ・親としてのその人の強さ、弱さを理解する。
- ・非加害親はアンビパレントさを抱えている(罪障感、どうしてこの男性と一緒にになったのか、との思いがある)。

日本では、非加害親は虐待者に依存的だが、イギリスではどうか、との質問に対し、イギリスでは、一般的に、「親として子どもを守ること」が大事なので、ちゃんと守れるかがポイントになる。結婚が壊れることより、子どもを守れなかったことの方が「恥」とされている。

離婚は一般的になってきており(50年で離婚率アップ)、男性と別れても、経済的給付や様々な社会福祉制度が保障されている。

- ・男性を家から追い出し、母子で住み続ける場合、ソーシャルサービスがバックアップ
- しかし、母親が認めない、あるいは決断できない等がある場合、「母親は信用できない」として、裁判所への申立てとなる。

母親の言うことと、実際にすることがどう違うかを見る必要がある。

この経過は長い時間がかかるが、見極め(子どもが安全か、どれほど伸びているか)は、数ヶ月の間に集中的に行う。

4) 子どもと親へのケア(therapeutic Work)と対応について・・・

SW、心理、医師で連携

家庭に返すことができない子どもは、里親による養育をはかり、そこからクリニックに通い、心理療法を受けることが多い。

親や子どもへのカウンセリング、セラピーは地域によって多少の違いはある。

実施する側に不安があるとできないが、NSPCCは、やっている。

親のグループワークで性的虐待を取り扱うのは少ない(不安を伴うので)。

アメリカ人はおおびらに話すが、イギリス人はそうではないため。

(里親委託について)

里親として認定されるまでのアセスメント期間は4~5ヶ月

いろいろ聞かれ、お金もかかるので、もういい、と断る人もいる。

子どもとは別のSWが対応。(子ども、里親、養親それぞれに別のSWがいる)

(施設入所について)

情緒的な課題を持った子どもの治療施設は、マルベリーブッシュ・スクールのようなところがある。

思春期の子どもには、サイコセラピーを中心としたところがある。

5) 予防対策(Prevention Work)と専門職のトレーニング

①保健師による取り組み

- ・10代の子どもに対するバースコントロールのコースが用意されている。

10代の子どもによる子育てが難しいのは、リサーチでも証明されているため。

育児困難はあるが、性的虐待の世代間伝達は、はっきりしていない。

②専門家のトレーニング

子どもへの性的虐待に対する NSPCC の新しい取り組みとして、「Fresh Start」と呼ばれる新たなプロジェクトが開始された。

ここでは、専門職に対して2ヶ月に1回の情報提供セッション（無料）と、より専門的なトレーニングやコンサルテーション（有料）が行われている。

結論

1 研究1年目である今年度は、児童相談所における性的虐待事例への対応、および家族支援の現状と課題に関して、研究協力者の実践フィールドを踏まえた検討を行った。

現状認識として、児童相談所においては、初期介入時点では虐待認定と子どもの安全確保が重要な命題であり、そのことにほとんどの時間とエネルギーが注がれている状況である。その際、特に虐待認定に関わる被害調査面接の技術の習得が大きな課題になっている。家族支援に関しては、性的虐待がもたらす子どもと家族への否定的影響を考える際に、初期対応時点での子どもと家族への何らかの心理的ケアが必要になると考えられるが、実際はそこまでは手が回っていない現状である。

児童相談所においてこの問題にどこまで取り組む必要があるか、あるいは取り組むことが可能なかなどに関しては、子どもの福祉とメンタルヘルスという命題を視座にすえて、欧米と日本の制度の違いも念頭に入れながら、援助枠組みについてさらに検討を深める必要がある。

2 上記の内容を踏まえた上で、性的虐待事例の家族支援を考える時、まずその内容の分析・検討が必要な状況であり、以下のような検討課題が抽出された。

① 家庭内性的虐待事例における家族支援についての検討

性的虐待の場合の家族再構築は、他のタイプの虐待とは同様には考えることは出来ない。その際にまず、「性的虐待」が児童相談所職員にどのように認識されているのかを踏まえる必要がある。その上で、加害者との同居についてどのように考えるか（視察をしたポートランドでは、加害者は被害を受けた子ども以外の子どもとの同居も認めていない）など、日本の現状を踏まえて検討する必要がある。

② 初期介入時点における家族支援について

まず非加害親および家族が「子どもを守れるかどうか」のアセスメントが必要であるが、現時点では、定形化したアセスメントツールはない。今後、海外の情報を参考にしながら検討する必要がある。

ついで、初期対応時点における非加害親や家族に対して児童相談所で行える支援、児童養護施設や里親へ委託されるケースへの施設と協働する中での支援枠組み、さらに治療機関との連携を視野に入れた支援枠組みの検討が必要である。

③ 中長期的視野に立った時の家族支援

施設入所や里親委託などの場合、非加害親や加害者との面会や外泊に関するマネジメントの実際に関する検討、および子どもの自立にむけた支援内容の検討が必要である。

④ ファミリーグループカンファレンスの適用に関する検討

現状を踏まえる中で、家庭内性的虐待事例において、ファミリーグループカンファレンスがどのように適用になるかについて検討していく必要がある。

3 大阪府における非加害親支援の状況

平成19年度から大阪府が取り組み始めた非加害親支援についてその経過と取り組み状況の整理を行った。リスクに焦点をあてたアセスメントについて、家族支援に焦点をあてた事例検討は、家族病理がより深く把握でき、中長期的マネジメント計画を作成する際に有効である。一方、初期対応時点での非加害親への心理的支援に関しては、今回のアメリカやイギリスの調査報告や先行研究²⁾からも有効性が明らかになっている。しかし上記2-②でも触れている様に、児童相談所における非加害親支援の扱う内容や、支援チームの構成など、このことを実践する際にどのようなことが必要なのか、ソフト面およびハード面も含んだ検討が必要である。

4 海外の先進事例の収集

分担研究者及び研究協力者によるイギリスとアメリカ（オレゴン州ポートランド）における先進事例の収集を行い、性的虐待への援助枠組みと家族支援、子どもの治療・ケアに関する

情報を収集した。

- ① 非加害親アセスメントツールに関しては、今回は十分な情報を得ることはできなかったが、さらに情報を収集する必要性があり、次年度の課題となった。
その際、日本との共通課題として語られていたことは、リスクアセスメントと支援・ケアアセスメントを、支援が主体の機関が行うことの困難さであった。
- ② イギリス及びアメリカ（オレゴン州ポートランド）で行なわれている子どもと家族への治療、および家族支援の実際について視察した。
家族支援に関しては、ポートランドの CARES NW で行われている、初期対応時点の非加害親支援グループの実際について情報を収集した。しかし、CARES NW は日本の児童相談所に相当する機関ではないため、機関の備えている基本的スタンスが違う場所であることと、参加者は全ての性的虐待（家庭内性的虐待および家庭外性的虐待）被害の保護者が参加していることから、日本の児童相談所でそのまま応用はできないと考えられた。しかし、非加害親の抱える臨床的課題は共通の部分があり、その部分への働きかけについて、児童相談所でどのように整理できるかは今後の検討課題である。
またアメリカやイギリスでの性的虐待への治療的アプローチは、メンタルヘルス部門で対応しており、その対象は、性的被虐待児と家族のみでなく性的加害児と家族も対象となっていた。日本において福祉と医療がどのように協働しながら子どものメンタルヘルスを守っていけるのか、虐待による影響が重篤になる可能性の強い性的虐待で、日本での現状にみあった課題の整理を小野や本間の分担研究との協働で行なう必要があると考えられた。しかし、臨床的観点から見たときに、その実践内容は日本でも有効に働くと考えられた。
- ③ 今回の調査で収集した「親や子どものために準備されているリーフレット」は、イギリスやアメリカでは有効に用いられていた。法的背景や定義の違いはあるが、リーフレットの臨床的内容は、日本の子ども家庭福祉臨床現場でも有用と考えられた。

資料編

1) 若者の心のパンフレット (Lister Primary Health Center で配布)

(訳 増沢 高)

性的虐待とは

若者の心のパンフレット

2ページ

もしあなたが性的虐待を受けた子どもを知っていたり、あるいはそれがあなた自身である場合、このパンフレットはあなたを手助けするものになるでしょう。ここに書いてあることは

- ◆性的虐待とは (3-4 ページ)
- ◆誰が性的虐待をするのでしょうか (4 ページ)
- ◆性的虐待を受けたときのような感情をいadakでしようか (5-7 ページ)
- ◆虐待がもたらす行動への影響は (8-10 ページ)
- ◆性的虐待を他の誰かに伝えるには (11-14 ページ)
- ◆あなたが感じたことを整理するには (15-16 ページ)
- ◆セラピーはどのように役立つでしょうか
- ◆だれが援助をするのでしょうか (18-19 ページ)

3ページ

性的虐待とは

- ◆あるタイプのキスをされる。
- ◆体のプライベート部分を触られる
- ◆レイプ (あなたが望んでいないのに強引にセックスをされる)
- ◆ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる。
- ◆子どもや若者が虐待と感じるその他の行為

子どもや若者がお互いの体を見たいと思ったり、お互いにお付き合いしたいと思うのは、正常な発達であって、ここでいうような問題のあるものではありません。

4ページ

性的虐待の加害者は、普通の場合、子どもや若者たちに比べ、強かったり、権威的立場にいるものです。加害者は、この優位な力を使って、子どもや若者たちを性的行為に誘おうとします。

法律は子どもと若者たちの安全と権利を守ろうとしています。誰かが性的な虐待を行うことは、法律を犯していることとなります。

誰が子どもたちを虐待するのでしょうか

虐待する大人は、普通の場合、見知らぬ人ではありません。多くの場合、親戚、家族の友人、近隣の人、間借りをしている人、ベビーシッター、学校や所属しているグループの誰か、などです。時には兄弟姉妹、友人の兄弟姉妹など若者の場合もあります。同じ人がひそかに2人以上の子どもを虐待していることが少なくありません。性的虐待の加害者は男性が普通ですが女性の場合もあります。

5ページ

性的虐待を受けたとき どのような感情をいadakでしようか。

虐待を受けたとき、ここにあげたような、なかなか解決することが難しい様々な感情が引き起こされます。

汚れた気持ち	恥ずかしさ	抑うつ	自分を価値のない人間と思う
混乱した気持ち	恐れ	他人を虐待してしまう心配	一人ぼっち
混乱	自殺したい気持ち	怒り	とまどい
自分の性についての心配	不安	逃げ出したい気持ち	
ボーイフレンドやガールフレンドを持つことへのおびえ		罪悪感	寂しさ

6ページ

「私がそんなことしないでって言ったとき、『何ばかなこと言ってるの、これはゲームだよ。ゲームが好きじゃないってこと?』とその人は言いました。私は本当に混乱しました。その人は時々『君が好きだからしているんだよ。これは二人の特別の秘密だよ。いいね』と言いました。私は嫌だと感じるのは私だけと思いましたが、いけない気持ちを抱いているのだと思えました。たぶんこのお父さんも皆このようなことをして、嫌だと感じるのは、私に変だからと思えました」

虐待を行う大人は、いろんな意味で良い人に見えることがあります。そのせいで、それが性的虐待だと受け止めににくくなります。

「今考えると本当におかしいのですが、私はずっと、虐待をする人はいつでもひどい人だと思っていました。宿題を見てくれたり、新しい洋服を買ってくれるような良い人であるとは思っていませんでした。だから事態を理解するにはしばらく時間がかかりました。」

7ページ

一部の虐待者は、自分の行為が悪いことではないと確信している場合があります。彼らは、子どもたちがそれを望んだと主張するかもしれません。虐待を受けている人々に、嫌だと言ってよいのかどうか、誰かに言ってよいのかどうかなどと迷わさせるのはそのためです。多くの虐待者は、子どもたちの年齢、未熟さ、恐怖といったものを利用して、虐待を行おうとします。

「お父さんが死んだあとすべてが始まりました。母親が本当に落ち込んでいたので、私は感情を心の中にしまいこみました。母親は生活費のために、長時間働く必要がありました。夕方は母方の伯父さんが世話をしてくれました。そのときから、それが始まりました。彼は、『もしお母さんに言ったら、それまでたくさん苦しんできたお母さんは壊れてしまうだろうね。』と言いました。」

大人は子どもと青年を養育し、保護する責任があります。子どもが大人を守る責任はありません。

8ページ

虐待がもたらす行動への影響は

性的虐待は、他の問題も引き起こす可能性があります。

清潔にしたり身の周りのことができなくなる

夜尿

不眠

悪夢をみる

家出

記憶がとぶ

友達を作れない

落ち着かない

摂食障害

自分自身を傷つける

集中困難

アルコールや薬物の使用

9ページ

「誰かに話す前は、夜眠ることが恐怖でした。起こったことを考えないようにしても、悪夢を見ました。あまりに疲れて学校のことも考えなくなり、さまよい歩きました。私はエイリアンのようで、こんな自分は世界で私一人だと感じて、誰にも伝えることができませんでした。」

私は何もしなくなって周囲を困らせました。しまいには誰かにイスを投げつけました。同じことをしたら、出て行くように言われました。母親はうまく対処できませんでした。そして私は代わりに自分の体を切りつけ始めました」

辛い気持ちに対処するときに「しっかり忘れてしまおう」とすることがよくあります。しかしそれがいつでも効果があるわけではありません。

10ページ

「どうしたらよいのか分かりませんでした。なぜならいつも家に帰ってそれを目の前にしなくてはいけなかったからです。私は、それを考えないようにできないものか、心の外のどこかに押し込めないだろうか、本当に起こったことでなければいいのに、などと考えました。馬鹿げたことばけなことがきっかけで思い出し、最悪な気持ちになりました。友人は離れ、トラブルを抱えた人たちと徘徊し始めました。出席点呼がすんだら学校を出て、万引きをし、お酒を飲んで度胸試しをしました。なぜそんなことしたかって? 危険なことをしたら、しばらくの間は家のことを考えずにすむからです。」

家出をすることが唯一の解決方法とを感じる人もいます。もしそうなったら、彼女らを利用し

ようとする人たちからの危険にさらされます。そして犯罪や売春に関与しやすくなります。もしあなたがそのように感じていたら、援助を受けることです。そのことがとても重要です

11 ページ

性的虐待を誰かに伝えるには
援助を受けることが重要な理由は3つあります

- ・虐待を止めること
- ・起きたことを克服するためのスタートを切る
- ・他の子どもたちや若者を守る

「私は2年間起き続けたことを誰にも言いませんでした。ただ、ヒントを与えるようなやり方で、ちょっとだけ試したこともあります。学校で『もし私の知り合いの子が虐待を受けていて、あなたに言ったらどうなると思う』などと言ってみました。皆それは児童相談所へ伝えるべきと言いました。私はそんなのとんでもない—私は家族が崩壊してほしくないし、私のせいになってしまう。とうとう、言葉にしたのですが、それは、あの人が私からいとこに乗り換えたって思ったからでした。

12 ページ

虐待を他人に伝えることは、大変難しく怖いことと感じるでしょう。もし話したら何が起きるだろうと心配するかもしれません。あるいは、信じてもらえるだろうかと思うかもしれません。(もし信じてもらえなくても、諦めずに他の誰かに伝えてください)

時に、あなたが一番言いたいことを書き留めておけば、それが手助けになることがあります。知っている人に伝えることが難しいと感じているのなら、ヘルプラインに電話することもできます。彼らはあなたが心配していることについて、大変役に立つアドバイスをしてくれます。(詳細は18-19ページに)

言いたくなければ、あなたの名前を言う必要はありません。すこしでも、たくさんでもあなたが話したいだけ話すことができます。

13 ページ

誰が助けてくれるかを考えることは、あなたを救う第1歩になるかもしれません。

ユースワーカー	医師	警察官	保健の先生
先生	友人	親せき	カウンセラー
ソーシャルワーカー			

「チャイルドラインに電話したとき、言葉が出るまで時間が少しかかりました。でも彼らは電話を切りませんでした。とにかく、本当によかったのは、私の顔を見られなくて済むことでした。だから彼らが道で会っても私のことは分からないんです。彼らは本当に辛抱強く、私が望んでいることを言えるよう、そして次にすべきことを決められるよう手助けしてくれました。ソーシャルサービスと警察が関与してくれた時も、一人ぼっちにならないようにずっと傍らに居続けてくれました。」

14 ページ

あなたが話そうと決めた人は、虐待を止めるための手続きをするソーシャルワーカーに通告しようとするかもしれません。その時も、あなたに話をするのが先になります。

もしあなたが虐待を受けたら、あるいは他の誰かがあなたが虐待を受けていると思ったら、調査が必要となります。ソーシャルワーカーや医師、警察といった人たちが起きたことを調べ、あなたを保護し援助するためになすべきことを決定します。

過去に警察の関与を受けたことがある人は、「虐待を受けた」ことで罰せられるかもしれないと心配する人もいるでしょう。しかしそれは問題になりません。警察と関わることで動揺するかもしれませんが、あなたを一貫して援助する人たちがいることを忘れないでください。

何が起ころうとも、たとえもし虐待者が裁判所に行くことになり有罪になったとしても、あなたの責任では全くありません。

15 ページ

あなたが感じていることを整理するには

虐待について誰かに話したからといって、乱れた気持ちがどこかへ消えてなくなるとは限りません。言わなかった方がよかったと思うときもあるかもしれません。

「それは全部ウソでしたとって、すべてを元に戻したいと思ったことは何度もありました。自分でも信じたくありませんでした。家族が普通になることだけを望んでいたのです。何も起こっていないと装うほうが楽だと思いました」

虐待を受けていたときにどのように感じるのかや、どのように援助を受けるべきかをよくしている訓練された人たちに話すことは大変有用な場合があります。こうした人たちは、心理セラピストや心理学者、精神分析家、カウンセラーです。これはあなたが精神病であるということの意味するものではありません。

16ページ

自分に起こった出来事を一人で話したいと思うかもしれないし、似たような経験をした仲間とグループで話したいと思うかもしれません。時には家族と一緒に専門家に話すことが役に立つと感じるでしょう。どのようなセラピーが適しているかは、必要に応じ、また希望によって異なります。

「グループにいたことが助けになりました。他の人にも起きうるんだということを知りました。でも私の感じ方は私だけのものです。一人ではないことがわかった時に、奇妙な感じは減るでしょう。恥じる必要があるのは虐待者であって私ではないということに気づいたのです。彼らに起きたことは他人のせいでもなく、私のせいでもないことも分かるようになります。」

17ページ

セラピーはどのように役立つでしょう

セラピーやカウンセリングを受けることを決めた青年は、結果として人生をよりよいものと感じるようになります。彼らは抑うつや悩みが減り、自分自身を良くとらえ、学校行くことのような普通のことに取り組めるようになります。

「そう。起きたことを話しても、先生は恐れて部屋から逃げ出さなかった。どう扱っていいのかわからなかったので、ふざけた態度で話しました。先生は少し深刻そうで、ユーモアのセンスがないなと思いました。でもそうしてくれたから最後にはまじめに取り組めるようになりました。私が感じていることをえり分け、それが私の人生の多くを占めるものではないことに気付かせてくれました。学校でもうまくいくようになり、私の人生により前向きにとりくみ始めるようになりました」

18ページ

誰が援助をするのでしょうか

こうしたところに連絡を取るとよいでしょう

Sex wise
NSPCC Child Protection Helpline
Care Line
Get Connected
Children`s Legal Centre
The Samaritans
Youth Access ChildLine

※それぞれの機関と連絡先

2) HELPING CHILDREN RECOVER FROM SEXUAL ABUSE: A GUIDE FOR PARENTS (CARES NW)

—性的虐待からの回復のための子ども支援：親のための手引—（訳：山本恒雄）

執筆者達は、この計画の完成に向けて意見や援助や相談を提供して下さった多くの人々に感謝します。

我々は又 Clackamas County Office of Children and Youth と Great Star funding grant に感謝致します。

特にこのパンフレット作成に当たって、ひらめきと発想で援助くださったギャビー・ドネル氏にお礼を申し上げます。

目次

性的虐待とは	1
わが子への最善の援助とは	3
法的にはどうなるのか	5
性的虐待はわが子にどんなふうに影響するのか	7
性的虐待は家族にどんなふうに影響するのか	9
親からの質問	12
これからどうすればいいのか	16
あなたの家族は癒やされる	19
問合せ機関リスト	20

この冊子は、あなたが、誰かがあなたの子どもの性を性的に虐待したことを知った後の、困難な時期を乗り切るため、あなたとあなたの家族を援助するために作成されました。子どもが性的虐待を受けたとき、その出来事によるトラウマは家族全体に影響を及ぼします。子どもは多くの困難で複雑な感情と向き合うことに苦しみます。両親は自らの反応や家族のニーズ、子どもの保護や法的なシステムと上手くやり繰りしようとする上で、たくさんの疑問に直面します。この冊子は、あなた方に、これからどういうことが予想され、これから起こる問題とどう向き合えばよいのかについてのガイドとして役立つでしょう。

【性的虐待とは】

子どもへの性的虐待は、大人や若者、年長児が彼ら自身の性的刺激・興奮のために子どもを利用するときに発生します。子どもは成熟した性的行動の意味を理解する能力を持たないため、そのような性的行動について情報確認と同意を子どもに与えることはできないのです。性的接触は子どもに身体的な痛みを伴わないこともあり、子どもたちの中には虐待によって性的関心を強く示し、性的活動を探求し始めるような場合もありますが、大人と子どもの間の性的な接触は常に大人の側に責任があります。

最近の統計では、四人に一人の女の子、そして六人に一人の男の子が、成人に達するまでに性的虐待を受けるだろうということが示されています。男の子への虐待は、実数よりは少なく報告されているとみられ、少なくとも女の子と同じくらいの頻度で男の子も虐待を受けていると多くの人は考えています。子どもを虐待する人の多くは、子どもの良く知っている人です。（大抵は家族員や家族の友人であったりします。）虐待者は男性でも女性でもあり得ます。最近の統計では性犯罪者の大半は男性ですが、以前より多くの女性犯罪者の存在も明らかになってきています。

殆どの子どもたちが性的虐待についてすぐには話しません。彼らは何か具合が悪いことを行動によって私たちに知らせようとするかもしれないし、あるいは誰一人、子どもが何かで悩んでいるとは判らない程、上手に秘密を隠すかもしれません。子どもたちは、性的虐待について話す事を多くの理由から、恐れています。彼らはしばしば、悪い子であると罰せられることを怖れています、あるいは大好きな人に迷惑がかかることを恐れています。彼らは脅迫されているかもしれないし、もし話してしまったら、自分や愛する誰かに何か恐ろしいことが起こるかもしれないと怖れているかもしれません。

子どもたちが性的虐待について話すとき、普通すぐに自分たちの受けた虐待の一部始終を話すことはありません。彼らは少しずつ話し始め、どのような反応が返ってくるのかを確かめています。もし彼らが虐待の話聞いた人が、彼らを受け止めてくれ、怒ったり、ひどく動揺し

たりしなかったら、何が起こったかについてもっと共有してくれそうだと感じるかもしれません。虐待の詳細はゆっくりと明らかになる傾向があります。

子どもたちは他の何よりも、家族の反応について心配しています。この事こそが、子どもたちが虐待の話をしばしば家族以外の誰かに最初に話す理由です。子どもは食べ物や住まい、衣服だけではなく、基本的な情緒的支援を家族に頼っています。もしこの支援が阻害されたり、損なわれたりした場合、子どもたちは恐怖や傷つきやすい無力感の中にわが身を置き去られる事になります。もし親が子どもたちの求めに対して世話をするのに、あまりに怒っていたり、動揺していたりすると、子どもたちは自分自身を責めるようになり、罪悪感を覚えるでしょう。子どもたちは、最初は性的虐待について家族に話さないかもしれませんが、なぜなら、彼らの安全感が損なわれる危険性があまりに大きいからです。

子どもが性的虐待について嘘をつくことは、とりわけ小さな子どもたちには極めて稀です。性的虐待の偽りの申立てを調査するために行われた研究によって、これは裏づけられています。しかし、大人は子どもの行動を誤って解釈したり、子どもたちの発言を誤解してしまうことがあるかもしれません。いかなる虐待の申立てについても、全ての疑いに対する徹底的で完全な調査は、本当に何が起こったのかを実証するために大変重要なことです。

ときには、子どもが他の子どもに性的虐待を行います。正常な性の探索と性的虐待との違いを決めることは、場合によっては難しいことです。単なる性的な遊びや好奇心によることから、性的虐待を区別する場合、以下の要因を考えることが大切です。

1. 子ども間の年齢・体格・発達の違い

性的な接触があったと分かった子どものうち、もし一方の子どもが相手に対して相当に年長（3歳からそれ以上）だったり、身体的に強かったり、発達面で優位（発達遅滞児や発達に遅れがある子どもの場合など）だったりした場合、一方の子どもが他方の子どもを力によって支配する危険性があります。

2. 強要や強制の程度

もし子どもが、性的な接触において身体的に強要されたり、騙されたり、賄賂をもらうことで関与していたら、もはやそれは遊びや相互の探索とはいえません。

3. 性的活動のタイプ

小さい子ども、特に三歳から五歳の子どもにおいて、プライベートな身体の部分を盗み見たり、触ったりすることでさえ自然なことです。しかし、膣や肛門への挿入、性交渉の模倣のような動作、性器への口での接触は、小さい子どもの発達段階の範囲を超えた性的活動そのものの例であり、それらは観察や体験によって学んだことです。

4. 行動の頻度

多くの子どもが性的な好奇心を持ち、“お医者さんごっこ”や“見せ合いごっこ”を楽しみますが、通常ほんの数回の遭遇で興味を失うものです。反復し、強迫的に行われる性的な行動は、性的虐待が関係している徴候となります。

【わが子への最善の援助とは】

あなたの子どもが性的虐待を受けたことが分かったとき、あなたの最初の反応は、ショック、そんなことが起こりえたと思いたくない否認、怒り、悲しみ、あるいはこれらの感情の入り混じりかもしれません。あなたは、なぜ子どもがすぐに話してくれなかったのか、特に虐待が過去のことであったり、一度でなく長期に渡っていたりする場合、不思議に思うかもしれません。しかし、前述したように子どもがこの情報を親に隠し、しばしば、友達や親戚、ベビーシッターや教師やその他の専門家に対して親に対してよりもオープンに話すことはよくあることなのです。

今、あなたは子どもが性的虐待にあったことを知りました。彼らが打ち明けたことについて、どれ程あなたが誇りに思っているのか伝えてください。子どものお母さん、お父さん、ケアテイカーの反応は、子どもが虐待を受けた被害から回復する主要なきっかけなのです。内面では、絶叫し、泣き叫びたい気持ちかもしれません。しかし、あなたの子どもにとって、あなたはできる限り穏やかであるように努めることが大切であることを覚えておいて下さい。そうしなければ子どもは自分たちが怒られていると感じてしまう危険性があります。

あなたの子どもは、頼ることのできる大人の保護と援助があることを知る必要があります。あなたは、子どもと虐待者を接触させないことで、この保護と援助を実行することができます。子どもは、性的虐待者が性犯罪者として完全な治療を受け、子どもの治療者が適切であるとき

なすまで、虐待者と監視されていない接触を持つことは許されません。あなたの子どもに、あなたが子どもを虐待者から守り、子どもたちの安全が最も優先されると、伝えてください。子どもは虐待者がどこで何をしているのか、について再確認を求めてくるかもしれません。虐待者に対する子どもの感情は、愛や親愛の情から恐れや怒りにまで及んでいます。子どもに虐待者についてどのような情報を与えるかは子どもの必要性によります。

さらに、あなたは普段の自然な家庭生活を可能な限り、ただ保持することで、子どもに安心感という援助を与えることができます。あなたは性的虐待が起こったことを悔やむあまり、家の規則を緩めたり、子どもに特権を与えたくなくなるかもしれません。しかし、そうしてしまうと、このようなストレスの高い状態では、子どもはその変化によって不安や不信を抱いてしまい、精神的な負担になります。子どもにとって必要なのはそのような愛情表現ではなく、予測できる範囲内の普段と変わらない状態を提供することです。

子どもに虐待について質問することは避けてください。虐待についての質問は、訓練された専門家によって行われるのが一般的に最も良いとされています。そうすれば、あなたが再度子どもに直接問うことなく、子どもを守るのに必要な情報について専門家から得られるのです。もし子どもが虐待についての情報を自ら話し始めたら、支持的に聞いてください。子どもが話したいときには、あなたが聴いてあげられるという事を伝えてください。子どもが感情を発散することを受け入れてください。その後で、あなたの家族と共に動いているケースワーカーや刑事、セラピストとその情報を共有するために、彼らがしゃべったことをメモしてもかまいません。

子どもとの約束事には特別な注意を払ってください。彼らは、すでに虐待者によって大人に対する信頼を揺るがされています。守れない約束をしないでください。約束を破ることは、子どもの後々の成長過程に傷を残します。

子どもの中には、実際の目撃や、医学的診察によって何が起こったかという証拠を明らかにすることができる場面でさえ、虐待についての話をすることができなかつたり、嫌がったりすることがあります。このことは子どもに何が起こったのかははっきりと知りたがっている親にとっては、大変なストレスです。子どもに繰り返し質問したり圧力をかけないことが重要です。子どもの体験がトラウマとなっている場合、時に子どもたちは体験した記憶を封印することで対処します。こうした子どもたちには虐待の記憶がなく、話すこともできません。子どもたちは彼らの準備が整ったときに話し始めるのです。

あなたの子どもが性的虐待を受けていると知ったとき、多くの時間とエネルギーを子どもの保護と援助に使わなくてはなりません。あなた自身へのケアも忘れないようにしてください。もしあなたが身体的・精神的に力尽きてしまったら、子どものためにそばについていることができなくなるのです。自分のペースを取り戻してください。子どもや他の大人たちと息抜きや楽しい時間を持ってください。抱えている不安を声に出したり、感情を表に出すために、子どもから離れた場所が必要なきもあります。時には親戚や親しい友人がその環境を与えてくれます。多くの親が専門家の援助によって役に立つ情報を得ています。

【法的には何が起こるのか？】

いったん虐待が、警察あるいは子どもと家庭支援のための州事務所：State Office for Service to Children and Families(SCF)に通告されると、家族は児童保護／刑事司法の管理化に置かれます。このシステムは複雑な、過重労働と人手不足のシステムです。このため、あなたの子どもと家族を擁護するこれらの機関職員と連絡をとることが大切です。あなたは、通告によるか、あるいは誰があなたの子どもを虐待したにしろ、子どもの虐待を知ったというあなたの訴えに基づいて、あなたが居住するかその他の要件に基づいて州政府に指定されたSCF：子どもと家庭支援のための州事務所のケースワーカーがあなたを担当することになります。同様に刑事が、さらに詳しく調査するために任命されることも、されないこともあります。

もしあなたの家族について何らかの専門家が任命されれば、彼らと協力し合うことになります。一つとして同じように進行するケースはありません。いろんな場面でああなたは疑問を持つかもしれません。その時々、ケースワーカーや刑事に尋ねてください。もし彼らが質問に答えられなければ、あなたは、彼らの上司やその過程をより理解する手助けをしてくれる誰かに紹介してもらうよう依頼する自由があります。

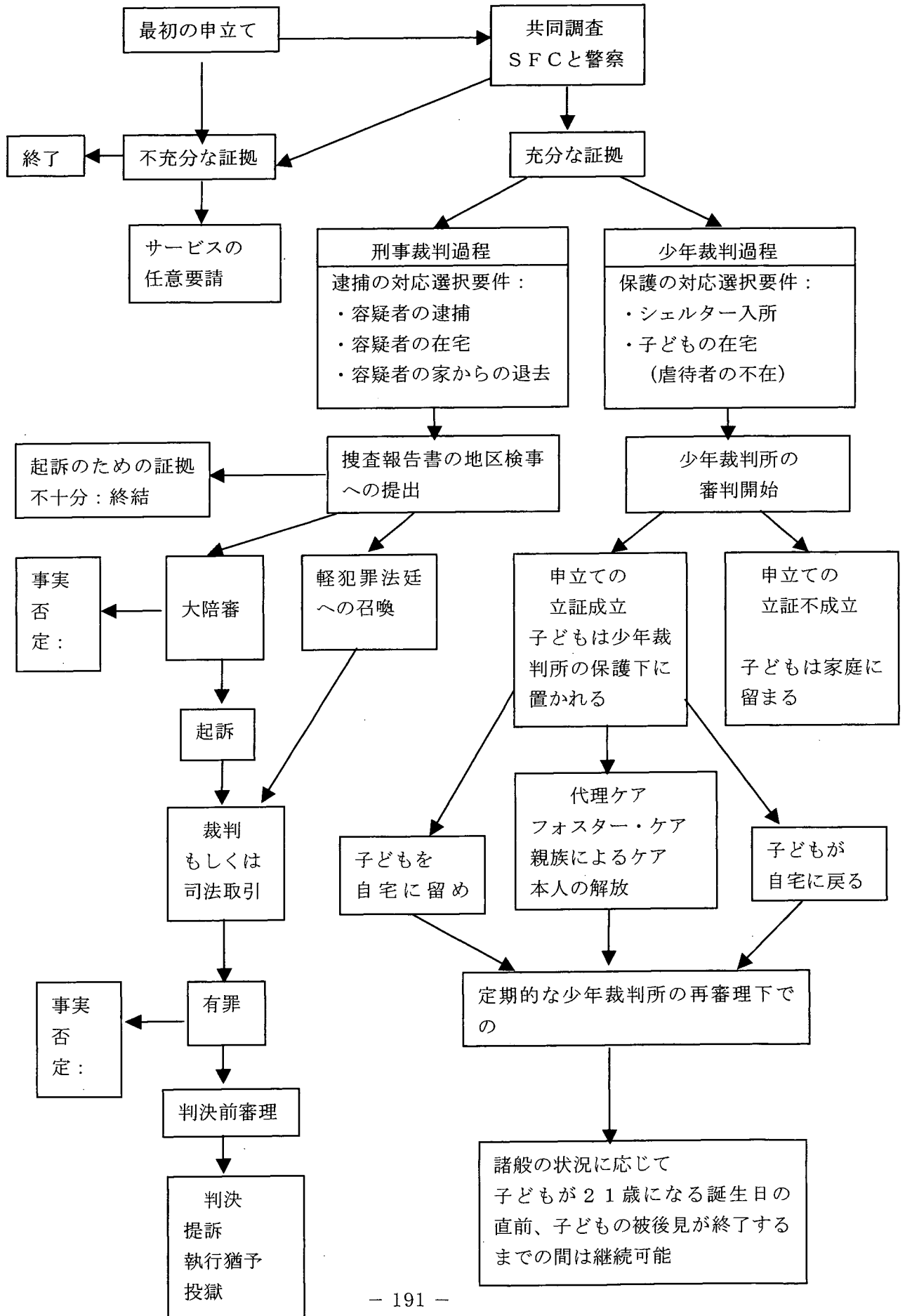
もし、誰も任命されなかったら、その理由を見つけて、援助可能な他の機関を紹介してもらってください。精神保健機関に加えて、郡区の地区検事事務所とも連絡を取ることができます。

地区検事の役割は、どの事案を、少年裁判もしくは刑事裁判システムのどちらに沿って進めていくかを決定することです。犯罪被害者擁護団体は、地区検事事務所と連携をとり、ケースが裁判に持ち込まれる家族に更なる援助を提供します。以下は実際にあなたが対面する、4つの裁判システムです。

1. 刑事裁判システム
成人が犯罪行為について起訴された場合。この手続きでは司法取引が認められない場合も、裁判を進めることができます。
2. 少年裁判システム
子どもが保護を必要としたり、その子が、仮に成人に達していた場合には犯罪として起訴されるような行為をした場合に用いられます。
3. 民事裁判
ある個人が他の個人に告訴された時に用いられます。
4. 家庭裁判もしくは“家事裁判”
児童虐待が、何らかの形で離婚問題において主張されたときに用いられます。

法的に生じることを簡略なフローチャートにしました。しかしこのプロセスを簡略化するのは困難なので、あなたが出会った専門家と共に行動を起こしてください。覚えておいて欲しいのは、あなたの注意は子どもに対して向けられるべきで、虐待者の身に起こることではないのです。あなたは虐待者を起訴することもできますし、その人物の治療を求めることもできますが、そのためにあなたの貴重な活力を使わないでください。あなたの貴重な活力は、あなたと子どもの癒しに必要なのですから。

児童虐待の裁判過程



【性的虐待は子どもにどう影響するのか】

全ての子どもはユニークであり、性的虐待もその子ども個人個人に異なった影響を及ぼします。虐待が生じた環境条件が、虐待を受けた特定の子どもの性質（素因）と同様、子どものトラウマへの対処方法を決定します。外的な出来事（身体的・性的虐待、愛する者の死、病気やけがなど）は、内的な要因（子どもと特定の性格や才能、強さと同等に、弱い部分や要援助性）と結びついて、ストレスによる子どもの反応を決定します。例えば、学習の問題と繊細な性格を持っており、最近、最愛の祖母を亡くしたところだったある8歳の少年と、特に主だった喪失経験がなく、快活で陽気な気質を持ち、学校でも上手く生活できる同級生の8歳の少年とでは、用務員による性的接触という出来事に対して、違った反応を示すでしょう。

性的虐待が子どもにどのように影響するのかについて最も重要な決定要因は、虐待が発覚したときの家族の反応です。家族の援助は子どもの回復に最も重要な部分なのです。

性的虐待を受けた子どもたちの多くは、何の症状も示しません。他の子どもたちは以下のような症状のいくつかあるいはその全てを示します。

不安反応：

悪夢、知らない人・ひとつの性もしくは人種への恐れ、身体的接触の回避又は過度のまわりつき

怒り反応：

癩癩、大人・仲間・きょうだい、物への攻撃性、飛び出し逃避

身体的訴え：

頭痛、腹痛、病気を理由にした登校しぶり

性的行動：

虐待を受けた子どもは、大人に対して性的に振舞うことがある。子供同士の性的遊びをはじめること、過度の自慰行為

幼児退行行動：

おねしょ、指しゃぶり、衛生観念の欠乏、赤ちゃん言葉

うつ：

これには悲しみや落ち込んだ心理状態、自傷行為、自殺念慮がある。子どものうつは、大人のうつとはしばしば違った様子であることを心がけておくことが重要である。子どもは本当に悲しみを抱えているとき、怒りやわがままな行動をとることがある。

罪と責任：

子どもはしばしば性的虐待にあったのは、自分が悪いと責め、虐待が家族に与える影響について自分に責任があると感じています。子どもに、“あなたが悪いのではない”と単に語りかけるだけでは通常十分ではない。信頼されている大人や、セラピストは、子どもが罪の感情を解決するのを援助するために、何が子どもに責めを感じさせているかを理解する必要がある。

否認と解離：

私たちの心は、耐えかねる痛みを感じる考えや記憶から、自動的に自分たちを守るようになります。重度のトラウマを抱える人々は、しばしば彼らの意識から体験を遮断します。子どもたちは性的虐待を覚えていないかもしれないし、すでに性的虐待を告白した子どもであっても、起こったことを“忘れよう”としているかもしれません。子どもたちは、彼らの経験の多くの部分を忘れていくかもしれないのです。

無力感と制御不能：

虐待を受けた子どもは、身に起こることをコントロールする権利を奪い去られてしまっています。これはしばしば無力感をもたらします。子どもたちは自分を弱く小さなものとして振舞ったり感じたりするか、あるいは周囲の全てのもをコントロールしようと試みるかもしれません。

【性的虐待は家族にどんなふうに影響するのか】

家族のメンバーの一人が、トラウマを経験している場合、そのトラウマは家族全員に影響を及ぼします。

カウンセリングが必要な虐待の被害者だけでなく、家族全員が特別な忍耐と援助が必要だということを知っておくことが大切です。

【親】

親はしばしば虐待に関して自分に責任があると思ひ悩みます。親は、常に、痛ましい経験か

ら子どもを守ってやろうと思っています。虐待から子どもを守ることができなかったという事実に関わりが直面しなければならぬことは非常に辛いことです。家庭内で性的虐待が生じた場合、虐待が本当に自分達の屋根の下で起こったということにショックを受けるかもしれません。何人かの親は、そのときは特に気に留めなかった虐待の症状や徴候に、後になって気づくかもしれません。これは性的虐待が非常に巧妙に隠された虐待であったため、子どもと加害者が虐待を厳格に秘密にしたことによります。他の家庭では親自身が子どもの警告徴候を否定することによって、虐待を見ようとしなないことがあります；子どもの中には親に虐待について話そうと試みますが、親はそれを信じようとしなないのです。もし虐待者と疑わしい人物が、きょうだいや親戚、親しい友人、配偶者であったとき、親は何を信じて受け入れればよいのかと苦悶するでしょう。虐待が家族外で生じた場合も親は、十分に気をつけなかったこと、デイケアの選択に気を配らなかつたこと、あそびを監視しなかつたことなどから罪の意識を感じるでしょう。

罪の意識に向き合うために、はじめに、あなたが何について罪を感じるのかを明確にし、理解することが大切です。それは、ある場合には、あなた次第で事態を違ったように扱えたかもしれないということかもしれません。そのことを認め、そのことから学ぶことが大切です。場合によっては、虐待を予測して予防することは不可能だったということになるかもしれません。こうした状況を理解すること、自分を許すことは大切なことです。

親はまた、子どもの虐待に関する悲哀の諸段階を通過します。これらは、誰かが亡くなったときに通過する悲哀の諸段階に似ています。否認の段階：親は虐待が本当に生じたを受け入れられない時期があります。もしくは、何かが起こったとは信じたとしても、実際に生じた現実の全てを受け入れることができないかもしれません。親は、これは悪い夢で、夢なら覚めると思うかもしれません。“全てが無いことにできたら”と願うことは理解できることで、とてもよく生じる思いです。怒りは、性的虐待に関する反応としてよくあるものです。怒りは、虐待者に対する怒りとして表現されたり、友人や愛する誰かに対してさえ向けられることがあります。

その他、法律や子どもの保護システムについて怒りを感じる人もいます。父親は特に、怒りと加害者をぶちのめしたいと感じる傾向があります。もしあなたが、自らの手によって犯罪者に罰を与えたりしたら、子どもに関する事態を悪化させるという事を、頭に入れておくことは大切です。

鬱や絶望といった感情も生じるかもしれません。親は、日常の生活行動をこなし、責任を果たすことが大変つらいかもしれません。あなたは、友人や家族からの支援が一番必要なときに、引きこもって彼らから離れてしまうかもしれません。いくらかの親たちは、アルコールや薬物を濫用したり、身体的疲労感や病んでいると感じたり、集中できなかつたり、眠り過ぎたり不眠になったり、過食や拒食に陥ることもあります。

もしあなたが、児童期に性的虐待に遭っていたら、あなたの子どもの虐待があなた自身の過去の記憶を刺激するでしょう。多くの親は、彼らの息子や娘の虐待を知ったまさにそのとき、自分の幼少時の性的虐待を思い出したと報告しています。あなた自身を治療することは、あなた自身の問題と子どもの虐待問題を分けて援助するために重要で、それが子どもの治療にとって最善の支援となるでしょう。

あなたはまた、あなたやあなたの子どもの、何が起こったのかについて本当に理解したり、それに対処するのに十分な時間をかける前に、虐待の事実を早く過去のことにしてしまいたいと思うかもしれません。いくらかの家族は、主な苦悩の症状が減少し始めるとすぐに、治療を終了しようとしています。他の家族は、多忙な仕事や多数の社会的活動を抱えているために、考えるための時間が持てません。虐待について話し合うことを良しとしない親たちはそれ故、虐待が恥ずべき秘密であるというメッセージを出し続けるかもしれません。

児童虐待のトラウマは、互いの関係を困難にするとの親からの報告があります。彼らはお互いに罪と怒りをぶつけ合うかもしれません。さらには、親の一方か双方が、性生活に興味をなくしたり、拒絶されたりすることすらあります。ストレスを抱えている時に、両親が互いにいたわり合う関係を持つことは極めて重要なことです。子どもから離れている時間を持ち、支えてくれる大人と共にいることは、大切です。

家族内での虐待の発生は、家族の世界観をも変えてしまいます。家族員は世界が公正で親切であるという信頼を失ってしまうかもしれません。個人的な、また宗教的な視点が動揺させられるかもしれません。他者への信頼、特に子どもの養育者に対する信頼には、深く影響します。あなたは状況や人々を見極める自分の能力を疑うかも知れません。共感して聞いてくれる友人や地域の機関、そして喜びや安らぎを与えてくれる社会活動との接触を維持することは、極め

て重要であることを心に留めておいてください。

多くの家族が、性的虐待が家族のメンバーに起こった場合、家族を維持していくことはストレスが多いという報告をしています。時に家族は、子どもを非難し、無実を主張する加害者の“味方になる”ことで、分裂するようになります。また時には、家族のメンバーたちが、虐待の事実を否定しようとしたり、非難しようとしたりして、子どもや親をののしる場合もあります。家族同士でいがみ合っているときには、休日はとりわけストレスが高まります。

あなたとあなたの子どもにとって最も大切なことは、今まさに受けられる全ての愛と支援が必要であることを忘れないでください。批判したり、言葉の暴力を使うような、とりわけ子どもを信じていない家族員は避けるようにしてください。どんなことがあっても虐待治療者や児童福祉組織、被害者の治療者が適当だとみなすまでは、あなたの子どもに性的ないたづらをした、彼・彼女を子どもに近づけることを許さないでください。

あなたやあなたの子どもの心の平和を脅かすようなことは、家族の結末のために止めて下さい。

【兄弟姉妹】

私たちはしばしば、性的虐待の被害者のきょうだいへの影響について、気に留めなかったり過小評価してしまいます。家族に生じたストレスは、全ての子どもに影響することを忘れないでください。虐待にあっていない子どもたちは、虐待を受けた子どもに全ての注意を注がれることにしばしば嫉妬します。もし、虐待者が被虐待児のきょうだいが良く知っていて好かれている人物であったら、なぜその人物が近くにいなくなってしまったのか、理解に苦しむかもしれません。虐待を受けていない子どもは、虐待を受けた子どもに対して、“パパを問題に巻き込んだ”“パパを追い出した”と非難することもあります。子どもたちは又、きょうだいを守れなかったこと、傷つけられたのが自分でなくて良かったと思うことから、罪の意識を抱くかもしれません。

虐待が報告された場合、虐待を受けていない子どもたちにも特別なケアと注意が必要であることを覚えておいてください。家族に何が起こったのか、彼らの年齢と精神発達に沿って理解できるように援助して下さい。虐待を受けていない子どもたちにもできる限り、特別で個人的な活動に気を配ってください。虐待を受けていない子どもたちが、家で適切な行動をどうしたらよいか、明確に予想できるようになるまでの間は、彼らの怒りや嫉妬といった感情を許容してください。

【親からの質問】

1. 私の子どもが、今必要としているメッセージは何ですか？

全ての子どもが、自分が愛されているというメッセージを必要としています。子どもたちは、とても頻繁に、性的虐待にあった後に、自分たちが汚く、だめになり、愛されない存在になったと感じると話しています。彼らはまた、虐待は自分たちの過ちであると感じています。時には、虐待について大人から責められるという恐れから、被害を訴えないこともあります。また、虐待者はまさにその因果関係について子どもたちを脅していることがあります。虐待者はこう言うでしょう「もしキミがこのことを話したら、問題が起こるよ」「もしキミがこのことを話したら、ママは怒って、もう二度とキミを愛してはくれないだろうね」あるいは「もしキミがこのことを話したら、私はママに傷を負わせるよ」と。だからこそ、このときにこれまで以上にあなたの子どもは、あなたが彼らを愛していること、あなた(親)のことは心配しなくても大丈夫であることを伝えられる必要があるのです。

子どもたちは又、彼らは信じられていて、守られるというメッセージを必要としています。彼らは、彼らの身体が正常で健康であるという安心感を必要としています。(質問10の：子どもに医療診察を受けさせたほうがよいか？を見て下さい。)

先に述べたように、あなたは、あなたの子どもが虐待にあったということを知ったことから、様々に異なる感情がわいてくるかもしれません。あなたの子どもが理解できるような前向きな方法で、それらの感情を正直に子どもと分かち合うことは構いません。例えば、子どもの医学診察から家へ帰る車中で、あなたが子どもの前で泣き始めたと仮定します。あなたは以下のように説明することができます。「あなたに起こったことが悲しくて泣いているんだよ。あなたが、何が起こったのかをお医者さんに話したことを嬉しく思うよ。それはとっても勇気のいることだよ。」

2. なぜ専門機関に性的虐待のことを話す必要があるのか？

この問題を内密に対処することはできないのか？

多くの援助専門家は、専門機関へ児童虐待の疑いについて報告することを法的に要請されています。性犯罪者の調査では、彼らは法的圧力なしには犯罪行為をやめないことが明らかです。また、犯罪者が起訴されなかったら、他の子どもたちの将来を守ることができなくなるのです。

3. 性的虐待の発生を誰に報告する必要があるのか？

あなたの地元の児童保護機関に報告して下さい。オレゴン州では、子どもと家族へのサービス州事務所の番号が、オレゴン州の電話帳に載っています。オペレーターが手を貸してくれます。特に郊外の地域では、直接法執行機関：警察や保安官：などに報告して下さい。できるだけ早く連絡して下さい。以下は伝える情報です。

- ① 虐待を受けた子どもの名前と誕生日
- ② 虐待が生じたと思われる場所
- ③ 虐待を行ったと思われる人物の名前、住所、誕生日（分かる範囲で）

電話する前に、これらの項目について書き出しておくといいでしょう。また、電話をしている間に、一緒にいてくれて安心や落ち着きをもたらしてくれる友人や親戚を見つけておくと、あなたにとって良いサポートとなるでしょう。

この電話は、子どものいるところでは行うべきではありません。電話の内容について理解できない10歳以下の子どもに対しては特に避けてください。あなたの子どもと他の子どもを守るために、あなたが警察や子どもと家庭支援のための州事務所に連絡する必要があることを、子どもに説明してください。

誰に虐待のことを話す必要があるのか、話したいのか、慎重に検討してください。年齢の高い子どもは、とりわけ彼らのプライバシーに敏感で広い範囲の隣人や親族に話す親に、侵害されたと感じやすいので注意が必要です。

4. 自慰行為をしていなかった子どもが、今はしている。どうしたらやめさせることができるか？

あなたの子どもは、まだ本当に幼い内から性に目覚めさせられたのです。体の興奮を抑えることは、彼・彼女にとって難しいことかもしれません。又彼・彼女はなぜ自慰行為をしたくなるのか、理解するには幼すぎるのです！それに、幼少時の自慰行為は自然なことであることを知っておいて下さい。性的虐待を受けていない子どもであっても、自慰行為を行うことはあります。

自慰行為を行う子どもに対して、非難することなく、控えめに接することが大切です。優しく他の活動に向かわせてください。恥の気持ちを持たないようにして下さい。自慰行為はプライベートに行われるべきであること、他の子どもと一緒に行ってはいけないことを子どもに教えることは大切です。(質問8を見て下さい) 検討するその他の要素として、自慰行為に費やす時間の総量があります。もし他の活動を妨げるほどの回数であると感じるならば、それは過度であると言え、子どもの治療者か小児科医とさらに話し合いが必要になるかも知れません。

5. 子どもは大人に対して不信感を持つのでしょうか？

全てのタイプの虐待が、子どもたちの大人に対する信用と信頼：信じて大丈夫な人たち、安全な場所としての世の中、に影響を与えます。あなたの愛と理解、そして虐待を行わないその他の大人によって、子どもの信頼を建て直す事ができるのです。

6. 子どもと一緒に寝るべきでしょうか？

多くの子どもたちは、何らかの理由で怯えることがあったり、調子が悪かったり動揺したりしたとき、親のベッドに入ってきます。そのような時、子どもを元気づけ、安心させることはとても大切なことです。しかし、子どもにとって一人で眠ることができるという事を学ばせることは大切であると私たちは考えています。子どもたちは、自分で眠るために、ひとりで物事をより円滑にし、落ち着く方法を学ぶ必要があるのです。他のきょうだいが、自分たちの中の一人が、ママやパパと眠ることを、ひどく憤慨するようになるかもしれません。結局、親にとってもプライバシーと一人で過ごす時間が必要です。

7. 自分の子どもが他の子どもの性器を触り始めたことに、どのように対処すれば

よいか？

あなたの子どもは早すぎる時期に性的な刺激を覚えてしまったのです。彼らにとってそれを止める事は難しいことです。彼らは自分にされたことを繰り返すかもしれず、そうした興奮に対処するほかの方法を学ぶ必要があります。このような状況では、子どもたちはきっちりと管理される必要があります。どのような接触行為も、すぐに止めさせる必要があります。強固な態度ではなく、優しく行って下さい。伝えるときはこのように言います“兄弟のペニス・姉妹の陰部に触ることはいけないことだよ。とっても大切なところだからね。”そして子どもたちに読書や塗り絵、散歩のような、いくつかの代わりとなる活動に結びつけるよう試みて下さい。一貫して行うことが、この行動を止めさせるという目標にとって大切なことです。この行動の過程において、あなたを支援するセラピストを持つことは不可欠なことです。

8. 私の子どもは加害者になるのか？

私たちの行った加害者調査の多くは、刑務所にいる強姦犯と児童虐待者の研究に由来しています。これらの犯罪者の多くは、子どものときに虐待を受けていました。このことは、虐待を受けた全ての子どもたちが、成長してから虐待者になるということではありません。虐待を受けた子どもたちのほとんどが、成長して加害者になることはないのです。

9. 私の子どもは同性愛者になるのでしょうか？

調査によると、幼少時の性的虐待と大人の性嗜好との間には関連性がありません。子どもによっては、同性愛者か異性愛者となる選択権を奪われ、性的虐待によって“同性愛にさせられた”と感じるかもしれません。これは真実ではありません。

10. 子どもに医学的診察を受けさせたほうが良いのか？

私たちは、子どもが性的虐待にあったと懸念される場合、全ての子どもたちが身体面の診察を受けるべきだと考えています。医師を選ぶにあたっては、性的虐待を受けた子どもの診察経験があるということが、必須となります。性的虐待の診察には特別な医学的訓練が必要なためです。

多くの親は、診察が子どもたちの将来に精神的な傷を負わせるだけなのではないかと心配します。私たちの経験では、優秀な医師による迅速な診察は、子どもたちに彼らの体が大丈夫であると安心させることができます。診察は内診(婦人科のような)ではないということを知ることが、あなたと子どもにとって大切なことです。診断は拡大レンズを用いた外性器の丁寧な視診です。

虐待を受けた子どもたちは、通常、何らかの意味で自分たちの体がだめになり、汚れていると心配しています。親身になってくれる医師が、“そうではない”と伝え、心の治療を始めることができることで、子どもたちに最良の安心を与えることができます。

診察を行うことは、その他にも良い理由があります。いくつかのケースでは、診察によって虐待の医学的証拠が見つかることがあります。医師は、早期に治療できる性病や性器の外傷を発見するかも知れません。最終的には医師は、子どもの支援にさらに手を差し伸べる専門家に、検査の間に子どもが述べたことや、発見したいくつかの証拠を報告するでしょう。

11. 虐待について全て忘れてしまい、単に私たちの生活を続けることが最善ではないのか？

子どもの頃に虐待を受けたと申し出た何千人もの大人達から判断すると、子どもは虐待を忘れることはありません。私たちはみんな、不愉快な出来事を自然に背後に押し込めようとする傾向があります。しかしもし私たちが、虐待の影響の可能性を、最初に注意深く見極めることもなく前進すれば、十分に子どもたちの役に立つことはできません。多くのことが子どもの未来に影響するでしょう。あなたの愛と支援は、子どもがより健康的な大人となる成長へと導くことができます。性的虐待の心の傷を治療するためには、彼らの問題を明るみに出さなくてはなりません。このことによって、私たちはその虐待はどんな出来事で、また、どんなケアが彼らに対してできるのかを知ることができるのです。

【これからどうすればよいのか？】

性的虐待を経験した全ての子どもたちは、彼らの治療に何が必要なのかという徹底的な評価を受けることによってサポートされます。全ての子どもが極端な症状を示すわけではありませ

ん。“アニー”と呼ばれている子どもの例を出しましょう。アニーは、父親から数年間以上に渡って、性的虐待を受けていました。7歳のときに彼女は母親に打ち明けました。母親は彼女を支えました。父親はアニーに性的ないたずらをしていたことを認め、家から出て、有罪を認める司法取引を行ったため、裁判には至りませんでした。両親はほぼすぐに離婚しました。アニーには深刻な症状は認められませんでした。学校での様子は優秀で、家庭でもなんら問題行動は認められませんでした。特に深刻な症状がみられるようなこともなかったのですが、母親はアニーを治療に連れて行きました。評価作業中、彼女は極めて物静かで冷静であり、行儀が良すぎるのが分かりました。アニーはほぼ同年齢の女の子の性的虐待児のグループセラピーを受けることになりました。彼女はこのグループセラピーを九ヶ月間受けました。この間にアニーは開花しました。

より話し好きで遊び上手になり、はきはきとした創造力の豊かな子どもになりました。彼女は学校とそのグループに新たな友人関係を形作りました。より落ち着いた幸せな若者として、グループを“卒業”したのです。

性的虐待を受けた子どもの治療の目標として、いくつか大切な事項があります。一つは、その子どもや他の子どもに有害とならない方法で、虐待体験にうまく対処するように、子どもを援助することです。

二つ目の目的は、コミュニケーション技術を伸ばすこと、特に感情の表出を援助することです。子どもの自尊感情を増進させるために多大な取り組みがなされます。その他の目標は、一般的に、役立ち、ためになるカウンセリングという、肯定的な体験を子どもに提供することです。こうすることで、後々生活の中で困難にあったとき、子どもたちが更なる援助のために治療に戻ってくるかもしれないのです。

虐待を受けた子どもたちには、人を信頼できない、自尊心が極端に低下している、自己主張ができないということや、罪の意識といったような、共通する問題がたくさんあります。しばしば、子どもたちは、自分の体についての心配しており、傷つけられてだめになってしまったのではないかと恐れや普通ではなくなっているのではないかなどと心配しています。子どもたちは、性的な方法によらずにどのように愛情を表現したらよいか混乱したり、いかなる身体接触も怖がってしまうようなことがあります。

カウンセリングでは、性的虐待だけが取り扱われる問題ではないことを覚えておいてください。多くの子どもたちは、両親や近い家族の死、虐待が原因の関係の喪失、離婚、身体的虐待、家庭内暴力というような、性的虐待と同じかそれ以上の精神的苦痛となる問題を抱えています。それぞれの子どものために、彼らの問題に取り組む機会を持つことが重要です。こういった理由から、治療者が1人1人異なるように、それぞれの子どもの治療も少しずつ異なります。治療法としては、個人、集団、家族で行う治療が一般的です。

あなたが子どものために選択する治療は、あなたが住んでいる地域の社会資源と、あなたが一番好ましく感じられるかどうかによって選ばれます。もし保険に入っているなら、どこまでが保険の対象範囲か調べてください。保険会社はよく、保険適応される、カウンセラーやソーシャル・ワーカー、心理士、精神科医のリストを公表しています。特に決められた回数のカウンセリングのみが、保険の対象範囲に含まれることは稀です。この点はカウンセラーと相談してください。その治療費が、交渉可能かどうか尋ねてください。あなたや子どもが“決められた回数のセラピー”では治療が充分でないこともあります。私たちの経験では、治療期間は個人の必要に基づいて変えることができます。

もしあなたが公的支援を求めているならば、子どもの治療のための福祉医療を受け付けている、それぞれの地域が指定している機関がいくつかあります。子どもと家族のための州事務所や福祉ワーカーがこれらの機関にあなたを紹介できます。

他のサービスとして、オレゴン州司法局によって提供される犯罪被害者救済プログラムがあります。このプログラムはオレゴン州で発生し、司法にも報告された犯罪による被害者の精神衛生カウンセリングを支援するために設立されたものです。より詳しい情報は：(503) 378-5348に電話してください。

セラピストを選ぶとき、親は、彼らの過去の経歴や学歴について尋ねる権利があります。また、他の被虐待児を治療した経験があるのか、専門は何かも聞くこともできます。私達はそのような概略をあなたに前もって提供する準備があります。セラピストがどのような方法を用いてセラピーを行うのか、また、あなたが子どものセラピーにどのように関わるのか聞いてください。小さな子どものセラピストは、遊戯療法として知られている方法を頻繁に用います。彼らは、言葉よりも遊びを通して、子どもたちとより容易に深く意思疎通できることを知ってい

ます。あなたはこういう方法を見たとき、何もされていないように感じるかもしれません。実際は、あなたの子どもは、熟練したセラピストとの遊びを通じて治療へと進んでいるのです。

年齢が高くなるにつれて、子どもは言葉で伝える技術が向上していくため、大人に使うような言葉を用いたセラピーがカウンセリングに用いられます。セラピストによっては、感情を共有したり、より深く問題を掘り下げたりするために、年長の子どもにも芸術療法や遊戯療法をなお用いることもあります。年齢の高い子どもは、時にセラピストの性別を非常にはっきりとより好みます。もしあなたの12歳の娘が、女性のセラピストとの話し合いを望み、女性のセラピストを見つけようとしているとしましょう。だからといって、彼女がある一方の性の人物から性的虐待を受けたから、反対の性別のセラピストを求めている、といったような前提条件は作らないでください。セラピストの能力がセラピストの性別よりも、とりわけ小さい子どもにとっては、大切なことです。

あなたは、候補に上がっているセラピストに、セラピーがどのくらいの期間行われるのか聞きたくなるかも知れません。多くのセラピストが、セラピーの過程を決定する前にまず、生育歴やその他の評価と簡単な査定をします。私たちの見解では、セラピーにかかる期間は、子どもによって大きく左右され、子どもの生育歴、そして現在の子どもを支える環境によっても異なります。セラピーには時間がかかります。

もしあなたが集団療法(グループセラピー)を考えているならば、そのグループの子どもの数と、セラピストの数との比率を尋ねてみてください。可能であれば、子ども10人以下で少なくとも2人のセラピストによって行われているグループをお勧めします。集団療法によっては、“12週間”といった、期間の制限が設けられています。子どもの問題に取り組むのには十分でないと感じるかもしれませんが、個人面談(個人治療・一人のセラピー)への第一歩として、または個人面談を始める良いきっかけとなります。グループのリーダーのアドバイスを聞いてください。

時に子どもは、内気のせいで、あるいは“家族の秘密”を話し合うことの恐れやためらいによって、カウンセリングに乗り気ではないことがあります。子どもを安心させることと、治療の遂行を決断したあなたの思いを持ち続けるようにしてください。もしあなたの子どもが足の骨を折ったとしたら、医療処置を受けるために救急室へ行くことをあなたはためらわないはずで、同様に、性的虐待を受けた子どもはカウンセリングによる治療を受ける権利があります。

性的虐待にあった子どもを治療する多くのセラピストは、子どもたちが青年に成長していく過程の様々な場面において、セラピーを受ける必要があると考えています。あなたの子どもが成長するにつれて、性的虐待と関連した別々の問題が出現するかもしれません。セラピストであり、専門家でもあるビバリー・ジェームスは、定期検査のために歯科医院に行き、新たな問題が起こればそれを直すために通院するといった、“歯科受診のモデル”として説明しています。つまり、子どもたちは、セラピストの元に短期間“検診”のために通ったり、新たな心配事を解決するための援助を受けるのです。

信頼でき、そして子どものニーズをあなたに的確に伝えることができるセラピストを、子どものために選ぶことが大切です。しかしまた一方で、あなたは子どもの支持者となるセラピスト選ぶということも大切です。もしあなたが、問題を話し合うためにもっと治療頻度と時間が必要だと度々感じるようであれば、それはあなた自身が自分のセラピストを必要としているというサインかも知れません。あなた自身のセラピーが必要とされるとは自然なことです。このことを、親としてあなたの役割にしくじっている表れとして捉える事は禁物です。あなたの子どもの回復には、あなたの存在が大きく関わっているのです。子どもと同様にあなた自身のニーズを満たすことも大切なのです。

【家族は治療できます】

子ども、そして家族は性的虐待のトラウマから回復します。人々に生じる多くの困難な出来事(死、病気、その他の喪失)のように、性的虐待ではそれを経験した人々に深刻な影響を及ぼしますが、必ずしも彼らの人生を壊す必要はありません。虐待の記憶には、常にいくつかの痛みを伴うかもしれませんが、このことは、子どもと家族をより強くし、お互いのより良い交流の方法について学ぶ事になるともいえるのです。

子どもは、信じられ、更なる虐待から守られていると知ったとき、回復し始めます。子どもはまた、彼らに起きたことや彼らが感じたことを伝えることができると、より回復していきます。これは、言葉や遊び、非言語的表現を通じて、実現されるでしょう。特に幼い子どもにおいては、